

平成27年1月1日

発行所 瀬戸市西長根町 10 番地 瀬戸旭医師会 TEL84 - 1155 発行人 黒江幸四郎  
URL <http://www.setoasahi.com> E-mail [isikai@setoasahi.com](mailto:isikai@setoasahi.com)

## 今後の日本、そして医療： 効率 (格差) か 均質 (平等) か？

独立行政法人 労働者健康福祉機構 旭労災病院 病院長 木村玄次郎  
(瀬戸旭医師会 参与)

昨年、①名古屋大学からノーベル賞受賞者が誕生した、②トヨタ自動車の年間利益が2兆円を突破した、③経団連会長を名古屋から輩出した、など中部圏が我が国を牽引する状況になってきた。確かに、重工業を中心に国の基幹産業が中部に集中し、今後の発展が約束されている。アベノミクスは、経済の活性化を最重要課題としインフレと給与増に誘導しようと試みている。国の借金を減少させるためにはインフレにせざるを得ないのは理解するが、この政策が正しいとは私には思えない。

先進国では、金持ちは楽をして利益を上げ、貧乏人は幾ら働いてもそれに見合う給料が得られない傾向にある。国際間で見ても同様の構図が見える。アメリカに富を集中させ、負債を日本など他国に押しつけている。そして、一部の金持ちのために世界が動く仕組みになっている。この格差社会をどう打破するかは国やひいては人類の将来が掛かっていると私は思う。このまま続けば、正直で真面目に働く若者が地球上から消えてしまい人類に将来はない。皆が楽をして儲かるスマートな仕事を求め、正直者を疎んじる傾向にある。私は、国内に限らず国際的にも、如何に富の分配に公平性を担保できるかが極めて重要と思う。我が国には最も公平な年功序列という給与体系があった。この日本独自の成熟したセイフティーネットが外圧によって破壊され国民と国自体の安心・安定の基盤が崩壊した。それでも、世界は日本の仕組みが如何に平等で安心・安全であるかを徐々に理解しつつある。そこで日本がお手本を示し、その仕組みを世界に広められないかと思考する。

先ず第1に、為替レートを固定してはと思う。変動させる必要は全くない。製造業では、本業にエネルギーを集中できず、本業以外でのバランスが大きく影響する。逆に考えると、この為替レートを時々刻々変動させるエネルギーは余りにも非生産的で無駄である。かつ、この為替レートを変動させることによって、楽をして利益を吸い取るシステムが作られていると感じるからである。昔そうであったように為替レートは固定とし、1年に1度程度見直し、その時の差益は、公平に分配すればよい。多額の資金さえあれば、変動させるだけで楽をして儲け得るシステムを無くすべきである。株価の変動も同様の色彩が強い。

アベノミクスは、消費の拡大を目指す、逆にそろそろ消費を抑制することが幸福に繋がるのではと私は考える。これだけ科学が進歩し、物質的には豊になったが、寧ろ幸福感は低下している。現在は、人間がロボット化しつつある。そこで第2に、人間本来の動物的な触れ合いのある社会に戻す必要がある。物を大切に永く使い、家族の温もりと一緒に孫の代まで伝えられるような生活に転換して行くことが望ましい。不必要に次々と新しい物を作り出すのを止めれば、投資の必要がなくなり利益は給料に回せる。投資を回収できていないうちに、また新しい投資をせざるを得ない

から給料に回せるお金を捻出できないのである。世界全体で新製品を出すサイクルをゆっくりにする必要がある。例えば、車を買う場合、1年後に買い換えれば税金を高くし、10年後に買い換えれば税金をゼロにするなどの仕組みが考えられよう。一方、新しい製品が次々と登場するため社会が追いつけない状況もある。スマートフォンを考えても、うまく活用すれば素晴らしい点があるが、負の面も大きい。人間同士の触れ合いや集中力が疎かになって人間性を低下させているのは明らかである。高度な技術が社会を発展させ便利にしていることは認めるが、それが幸福につながっているかは疑問である。消費を抑制すると同時に社会資本への投資を抑制し徐々に国の借金を返済するのである。新しいとか、大きい、速いに価値を求めるのではなく、人間的な豊かさを追求する必要がある。成長ではなく成熟を目指すべきであろう。

同様に、高度な医療が人類を幸せにしているかも必ずしも明らかではない。最近では、高額医療が無数に登場している。治療メニューによって金額や自己負担額が異なり、混合診療も視野に入ってきた。医療も金次第という段階に向かいつつある。医療の分野では、それに加えて高齢者医療をどう支えるかと云う問題も未解決である。そこで、国民は効率か平等かの選択を迫られていると私は理解している。アメリカは国土面積の半分以上は無医村である。大陸横断のため高速道路を走って行くと no gas, no food, no hospital との標識を掲げているインターチェンジが目立つ。グランドキャニオンに行くとき足を滑らせば死を意味するが、広大な絶壁に柵はない。つまり、アメリカには国民を安全から守る思想は全くなく、安全を守るのは個人の義務になっている。銃が無くならないのや、健康皆保険制度が根付かないのも歴史に照らせば当然である。効率を求め不平等にならざるを得ない。これに対して、日本は如何にも均質であり、国民は平等である。国民も全員が中流階級であることを願っている。したがって、日本は、このまま均質かつ平等な社会を堅持すべきと思う（第3の柱）。効率を求めた不平等社会は日本には馴染まない。問題は、現在の国の財政では今までのような均質・平等を維持できなくなっていることにある。だからこそ、今となっては、前述した生産性を落としたデフレ経済にシフトする以外に日本の方向性はないと私は想像する。地球上のすべての国が現在の日本のように近代化することを想像するだけで恐怖である。そろそろ、ゆっくりとしたエコライフへ移行すべきである。近代性では後退するが、幸福度は向上するはずである。全ての国が今まで通りインフレを進めば、食料やエネルギーが枯渇するのは明白で、いつかは地球上の全ての国がデフレにシフトせざるを得ない。それならばこそ、日本がその先頭に立って世界を誘導すべきではないか。これまでの先進国は、右肩上がりの国作りしか経験してこなかった。しかし、これからは、デフレ政策こそ人間や社会を幸福にする方程式と信じる。医療でも、皆保険を堅持できるレベルまで医療水準を落とす必要があるのではないか。高額医療や高齢者医療を中心に、平等性を維持しながら経済を考慮した仕組作りが必要となろう。第1のセイフティーネットであったはずの年功序列が消滅した現在、第2のセイフティーネットである国民皆保健制度は断固堅持すべきである。

デフレ社会になると基礎研究が停滞する可能性が心配ではある。日本からノーベル賞が出なくなるかもしれない。少なからず科学の進歩が人間の幸福に寄与したことは確かである。しかし、地球や人類の存亡について長期的視野で考えると、経済活動を抑制せざるを得ないのは明白ではないか。経済のメカニズムさえ理解していない一市民の、しかし真面目な本心である。